



路政春秋

もて餘す村有財産と

交付金の戸惑だ

長野縣諏訪郡川岸村は昔時天龍川畔の一寒村に過ぎなかつたが先代片倉兼太郎翁が明治二年六月開明社を設立して製糸業を経営したが爲め斯業の發達と共に村有財産も着々増殖され其額今日では五十三萬餘圓に達し無税の村として有名である、夫れで新國策とも誇られておる國庫交付金の恩典に浴することを得ないので、此巨額の村有財産を如何に消費せんかと苦心しておることである、村有財産をもて餘すとはもつたいすぎることである。

京濱運河は公營とな
るか

京濱運河の開鑿は二タ昔の明治四十三年の頃京濱運河株式會社に依つて出願され、免許を受けた處が、事業に着手しないので大正六年九月取消の通達に接した、該會社では設計を變更し目的を埋立とし出願したが、國營論が主張せられたるも其の經費は豫算に編入せられなかつたので其の儘今日に至つた、所が統制主義強調の秋である、議は東京府と神奈川縣との公營と定まつた。其の理由とする所は次の如きものと傳へらる、

一、京濱工業地帯の造成は北九州と相俟

注意

本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に涉らざる限り奇想天外的の寄稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯部に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

つて我國産業發展の心臓部として極めて重要なものであること

一、工業地帯の造成は民營をもつてして

は困難なること

一、工業地帯の諸施設、防波堤、水深、

岸壁維持は民營にて不可能なること

一、軍需工業の發展誘致等のためにする

機率的諸計畫は民營では到底至難なる

こと

等の諸點であると會社側の失望も同情に値する。

國鐵と道路との交叉

は立體へ

交通禍の厄災神として呪ひの的である道

路と鐵道の平面交叉につき東京府から鐵道省に交渉して居つたが國鐵當局では愈々左記の場所に對し跨線道路橋乃至地下道改良工事として今、明年度に着手することゝなつた

△下十條―赤羽一軒八三〇米は近跨線橋新設△小岩―市川跨線橋△池袋驛構内音羽道踏切を跨線橋に△大井町驛構内品川踏切を跨線橋に△東神奈川―菊名間に跨線橋△大船―藤澤間踏切を架道橋に△平塚―大磯間踏切を架道橋に△相原―八王子間跨線道路橋△東中野―桐ヶ谷踏切を地下道に△蒲田―大森間二軒三五〇米は近跨線道路橋新設△川口驛踏切改築と善哉善哉。

三千圓の大津浪て交 通妨害

帝都の中央に市街戰其のものの如き大混亂を現出し爲めに交通妨害の狀態を見るに至つた、日本勸業銀行の割引債券賣出しに

集る黄金熱狂群は其の數五萬餘を算し、またよくまに債券三萬枚も賣り盡されたが群集の四散した跡の汚穢さは筆紙の果し得ざる所で帝國ホテルは勿論其地區内の住民をして痛く憤慨せしめたものだ、石井勸銀總裁をして「イヤどうも大變な騒ぎで警察方からも取締がつかぬから中止しろと嚴談された……之れも煽り立てた債券屋が第一悪い」と嘆息せしめたとの事だが債券屋も悪いだらうが、夫れよりも郵便局なり他の銀行に依頼販賣の途を講じなかつた勸銀の側に大な手落ちがなかつたかどうか交通をして流線型たらしむべき帝都の面目汚しとならぬ様に打算外の注意が必要であらう

國民貯蓄の零細な金 は何處へ行く？

我國郵便貯金は明治八年創設されたものであるが當時は我國の金融制度極めて不備で利率の決定も一定の標準とすべきもの無く、ただ僅かに實施されてゐたイギリスの

二分五厘、ベルギーの三分を參考にして兎も角三分と決めたのであつた、然るに當時斯る低利では貯金が集まるはずがなく翌明治九年三月四分に引上げたのを皮切りに十年一月五分、十一年一月六分、十四年四月七分二厘とそれ／＼引上げたのであつたが、この七分二厘が最高で凡そ四ヶ年据置かれ明治十八年六分に引下げ續いて十九年五月五分四厘、更に同年九月西南戰爭における紙幣亂發の跡始末として幣制改革案が成立したのを契機として四分二厘に引下げられた、が幣制改革の落着と共に明治廿一年四月四分八厘に引上げられた、續いて日露戰爭の勃發と共に高金利政策並に郵便貯金獎勵の見地よりして明治三十七年九月五分四厘に引上げたが當時郵便貯金はまだ總額三千八百萬圓程度であつた。

郵便貯金が一億圓臺を算したのは明治四十一年が初めてであつた、夫れが殆んど中央政府の利用に供せらるるのである、寧ろ之を集めては散し散しては集むる爲めに低

利を以て地方に融通し、土木事業、産業方面の發達を促進すべきである。と氣付いたのが内務省の床次地方局長であつた、其の意見を採用して實現せしめたのが當時の平田内相であつた、時は明治四十二年である。利子は翌四十三年四月に再び四分二厘に引上げられた、その後大正四年四分八厘に引上げられたが、昭和五年十月一般金利の趨勢に順應して四分二厘に引下げが行はれた。

この間郵便貯金總額は増加の一途をたどり昭和四年には二十億圓突破、昭和七年十月時の高橋藏相の劃期的低金利政策によつて一舉に一分二厘の大幅引下げの結果、現行の三分となつたにも拘らず昭和九年には遂に三十億圓を突破し現在の三十四億圓の巨額に上つたものである。今回の利下げは増税に伴ふ金融統制と低金利政策の徹底を期する目的から來たもので郵便貯金の利子が三分を割つて二分臺を見た事は郵便貯金制度實施以來初めての事である。斯くては地方零細の資金は郵便貯金から何處へ行くであ

らうか低利資金の供給はどうなるであらうか。

政黨は蘇生するか

政友會總裁鈴木氏は九州大會席上で「最近國民は政黨に對して漸く自覺を再起したやうである、左右兩極の思想を排除し、穩健中正の國家發展を爲すには議會の健全なる發達と、これが運用機關たる政黨の自覺更生が必要とせられます、此際政黨は敢然として自肅自強の態度に邁進し、其の内部を刷新し、國策を検討し、以て國家本位の活潑なる機能を發揮し、君國に奉仕せんことを希望す」と演説を試みられて居るが政黨自ら反省し更生の道を辿らなければならぬことは既定の事實であるが國民が政黨共鳴の日は近つきつゝあるか。世界の動きは蝸牛角上の争を以つて終始することを許容するや否。

世界的大工事の火蓋

は豆トネル

明年四月の年度變りから鐵道隧道準

備工事と同時に競技的でもあるまいが國道關門海底トネルの準備工事が始まる、其の難工事の主任は下關内務省土木出張所長工博三浦七郎氏である、同技師はニコノと早朝海峡の浪頭を凝視しながら「此工事のルートは調査である、初めトネルの下方に素掘をもつて縦三米横二米の豆トネルを試掘し將來の排水路並に材料運搬路にあてる計畫である、取付口は門司側一箇所、下關側長方面入口を境ノ浦、市内入口を更らに一箇所造る見込である、一年半位で豆トネル掘鑿を完成し工事は早ければ三年か四年で完成したい」と意氣込んで語られた、平家一門の海底生活も三浦主任に依つて暴露せらるゝや如何に。

雨は降る／＼稀硫酸

の雨が

雨が降る／＼城ヶ島の沖にリキユー鼠の雨が降ると歌には唄へ、都大路の空中に黒煙濛々と惡魔の大手の如く擴がるのは燃ゆべきものか燃えずに煙突から發散するもので稀硫酸の雨である、煤煙禍は紫外線の吸血兒のダンスである。